

技能評価システム移転促進事業(SESPP)は日本式技能評価のノウハウを移転するため、ベトナム、カンボジア、インドネシアを対象に日本の専門家によるセミナーや技能評価トライアルを実施しています。事業の運営事務局を株式会社 J T B 霞が関事業部にて受託しております。日本式の技能評価の活用促進が図れるよう、J-Skills Newsでは、事業の取組などをお知らせしています。(年3回発行)

□カンボジア・ベトナムで2022年度現地事業評価を実施

SESPP事業の効果的・効率的な実施を図るため、対象国における技能労働者のニーズの把握、広報手法や取組職種・等級の検証、中長期的課題の把握等を行うことを目的として、活動対象国であるカンボジアと2月28日(火)、ベトナムと3月2日(木)に官民合同委員会を開催いたしました。メンバーは各国政府人材開発部局、現地訓練施設、厚生労働省、SESPP事務局、およびその他本事業に関係する者で構成され、当年度事業の実施状況や成果、次年度実施に向けた提案、意見交換等を議題に開催いたしました。

■カンボジア

日時 参加者	2023年2月28日(火) カンボジア14:35-17:40 労働・職業訓練省(MoLVT)、NPIC、NTTI、PPI、ITI、厚生労働省、日本大使館、JICA事務所、SESPP事務局
参加者数	21人
今年度実施した 職種の成果	技能競技大会セミナー ・情報ネットワーク施工(2回) 技能検定 ・シーケンス制御2級 技能評価トライアル、技能評価者認定 ・配電盤制御盤2級 技能評価者講習、技能評価トライアル ・電気系保全2級 技能評価者講習、技能評価トライアル ・機械検査3級 技能評価者講習、技能評価トライアル その他 ・本邦研修： 技能競技大会セミナー(情報ネットワーク施工)
次年度の職種に 係る主な議論	<<技能競技大会>> ・目標：新たな技能競技種目の実施に向けた技能競技運営方法、採点・評価方法の習得 ・日本人専門家によるデモンストレーション・セミナー、技能競技委員の訓練・模擬競技等の実施 職種案：情報ネットワーク施工 ・情報ネットワーク施工の2週間の日本での研修(国内技能競技大会視察を含む) (本邦研修) <<技能検定>> ・目標：国家検定制度の構築、SESPP協力職種のアセスメントセンター認定 ・2022年事業のフォローアップ(技能評価トライアル) 職種案：配電盤制御盤SET、電気系保全SET、機械検査SET、 新規職種としてフリス盤の実施を提案 ・カンボジアの国家検定制度構築への協力
今後の両国間の 取り組み	・今まで電気系の職種を中心に支援してきたが、人材育成、産業の発展には機械加工職種が欠かせない。NPICはフリス盤が実施可能な機材を有しているため、フリス盤を提案する。フリス盤が相応しいか、他に支援希望職種があれば聞かせてほしい。 (厚生労働省、SESPP事務局) ・支援希望職種については各訓練校内で検討の上、基準・カリキュラム部(DSC)経由、日本に回答する。(MoLVT)

■ベトナム

日時 参加者	2023年3月2日(木) 9:30-12:00 サイゴンハイテクパーク訓練センター(SHTP-TC)、厚生労働省、JICA事務所、企業(日系、現地)、 研修受講者・受検者、SESPP事務局
参加者数	50人
今年度実施した 研修の成果	技能検定 《南部(ホーチミン)》 ・機械検査3級 技能評価トライアル、技能評価者認定、技能評価技法研修
次年度の職種に 係る主な議論	《技能検定》 ・目標：SESPP協力職種の社内検定・業界検定の構築 ・2022年事業のフォローアップ(セミナー、技能評価トライアル、技能評価者認定) 職種案：機械検査3級SET/SAC、機械検査2級SAT/SET ・必要に応じ、新たな職種の社内検定・業界検定の構築への協力 職種案：シーケンス制御、CAD製図 《(参考)技能競技大会》 ・目標：技能競技実施体制の強化及び技能競技委員の評価能力のレベルアップ ・日本人専門家によるデモンストレーション・セミナー、技能競技委員の訓練・模擬競技等の実施 ・対象職種：情報ネットワーク施工職種 ・情報ネットワーク施工の2週間の日本での研修(国内技能競技大会視察含む) (本邦研修)
今後の両国間の 取り組み	・業界検定、企業検定を定着させることで、ベトナムの人材育成への寄与および産業発展に貢献 すべく、SHTP-TCを含む訓練機関や日系・現地法人と協力しあって、よりニーズの高い職種への 支援を継続していくことを確認した。

□研修レポート

■インドネシアにおける機械製図(CAD作業)2級の技能評価トライアル(SET)・ 技能評価者認定(SAC)

2022年12月12日(月)～12月16日(金)に機械製図(CAD作業)2級の技能評価トライアル及び
技能評価者認定が松下グローバル財団・ハイテク金型センターにて開催されました。
講師は西谷賢二氏(パナソニックホールディングス株式会社)にご担当いただきました。

インドネシアにおける機械製図(CAD作業)の技能評価システムを通じた技能移転は2019年に始まり、
今回は評価者としての集大成となる研修です。技能評価者認定は受講者4名全員が合格し、4名の認
定評価者が誕生しました。技能評価トライアルは受検者1名でした。
研修では「評価者の役割と責務、実技試験問題、必要機材等についての講義」、「評価者と受検者に
分かれての役割演習」、「採点・評価実習」、「履歴書の書き方・認定申請書の書き方についての講習」、
「採点評価作業」、「採点・評価作業」等が行われました。

講師の西谷氏からは、『やはり対面でなければ伝えきれない、微妙なニュアンスもあり、ようやく最初の
SACも実施でき、評価者には納得していただけた様子で、こちらとしても安堵できました。しかし、残念な
がら今年の2級SET受検者は僅か1名でした。毎年3級受検者は10人以上いるので、2級にチャレンジ
できる環境を整えるよう、会社側の支援も必要だと痛感します。』との講評をいただきました。
受講者からは、『1級のトライアルと、将来的な準備のためのディスカッション(をしてほしい)』『来年度の
SAT/SET/SACの実施も、クラスで対面式で行ってほしい。』等の意見が寄せられました。



講義風景



実技試験風景



採点評価作業

■ベトナムにおける機械検査3級の技能評価トライアル(SET)、技能評価者認定(SAC)、技能評価技法研修(SEM)

2023年1月7日(土)～1月9日(月)に機械検査3級の技能評価トライアルおよび技能評価者認定、1月11日(水)～1月13日(金)に技能評価技法研修がサイゴン・ハイテクパーク・訓練センター(SHTP-TC)で、更に1月14日(土)～1月16日(月)に技能評価トライアルがミツバベトナム社工場にて開催されました。講師は稲川文夫氏(SESPP事務局 技術顧問)が担当を務めました。

本年度は新政令に基づいた海外からのODA事業実施に対する承認をDVET(職業教育訓練総局)が得ることが出来ず、年度当初の予定を変更し、SHTP-TCを中心とした機械検査職種の業界検定という位置づけで、支援を実施いたしました。機械検査職種はベトナム南部の日系企業から多くの受検希望者があり、今後同職種の技能評価トライアルが継続的に自立して実施できるよう、認定評価者を増やすこと、およびSHTP-TC側で自立的に学科試験問題が準備できることを目的としています。

そのために、技能検定の機械検査3級の基準と細目に基づく学科試験の構成と作成方法に関する技能評価技法研修(SEM)を実施しました。

今回の研修内容は「評価者講習補講」、「評価者の役割と業務」、「3級と2級の違いについての説明」、「学科試験問題作成」、「技能評価トライアル実施」、「学科及び実技試験実施」、「採点評価」、「評価者認定試験の実施」、等でした。

評価者認定対象者は7名で、試験の結果5名が合格しました。ベトナム南部での認定評価者は合計9名となりました。技能評価トライアル受検者は21名、合格者は12名でした。

講師の稲川氏からは下記の講評がありました。

1月7日(土)～1月9日(月) 開催の技能評価トライアルおよび技能評価者認定について：『機械検査職種は(ベトナム)南部では日系企業のニーズが高く、今回シオガイ精機とDynamo Vietnamからの受検希望者を対象に実施した。今回新しく誕生する5人の認定評価者はSHTP-TCが日本式技能検定を実施する際に中核人材として役割を担ってくれるものと期待できる。』

1月14日(土)～1月16日(月) 開催の技能評価トライアルについて：『必要な機材、機器を企業の現場に持ち込んで実施するという初めての試みである。企業の現場に出向いて試験を実施する方法はSHTP-TCから遠く離れた工業団地にある企業にとって参加するハードルが低くなり、従業員を受検させやすくなる。今回の試験において合格ラインに達している者は50%で、企業の受検対策指導が有効に機能していることがうかがえる。』

技能評価技法研修について：『技能評価トライアルを継続して実施していくためには学科試験問題を30問作成して準備することが必要不可欠である。学科試験問題の作成については、基準と細目を十分に理解し、解釈して作成するには力不足でフォローアップが必要である。引き続き協力・支援してほしい旨、要請された。』



実技試験風景



実技試験風景



採点評価風景



採点評価風景



SEM実施風景



SEM実施風景

■カンボジアにおける競技課題採点・評価セミナー(情報ネットワーク施工)

2022年12月19日(月)～23日(金)、及び2023年1月23日(月)～1月27日(金)の2回に渡って競技課題採点・評価セミナー(情報ネットワーク施工)がNPIC(国立カンボジア高等工科職業訓練校)で開催されました。講師は12月のセミナーを小泉孝史氏(株式会社関電工)及び前田洋介氏(株式会社ミライト・ワン)に、1月のセミナーを松本祥孝氏(関西職業能力開発促進センター)及び伊藤進氏(株式会社きんでん)にご担当いただきました。

受講者は12月のセミナーでは5名、1月のセミナーでは6名でした。参加者はNPIC校、NTTI校、PPI校等の各指導員です。

研修内容は、光の『作業単位、課題の実施、課題の評価』、メタルの『作業単位、課題の実施、課題の評価スピードチャレンジ』等の研修を経て、光・メタルの模擬競技を実施しました。

講師からは『2024年の技能競技大会開催を目標に選手育成、ガイドライン関係の作成を早々に進めること、カンボジア国内での機材調達を積極的に取り組んでほしい。部材の品質を気にしていたが、まずは開催することが大切で、回を重ねていくことで質も高めていけば良い。』(小泉氏)、『日本式の大会に固執しすぎずにカンボジアの実情に即した形での運営を考えた方が、競技大会の開催がしやすくなる。また、高い頻度で三校が集まり、競技大会開催に向けてディスカッションすることも大事である。』(前田氏)、『機材、資材の調達にはメーカーの協力は不可欠で、機材不足を解消するためにいかにメーカーの協力を得ていくかが課題。』(伊藤氏)、『課題に対しての技術、評価するスキルも持っている。この先自立していくには、日本の支援を受け続けるのは現実的ではない。機材、資材調達を含めて自立しなくてはならない。』(松本氏)といった講評が寄せられました。

参加者からは『光ファイバ(核融合接続)融着機についてさらに練習する必要がある』、『受講できて大変満足している。今後もこのような研修を実施して欲しい。』といった意見が寄せられました。



講習風景



講習風景



実習風景



光課題解説風景



模擬競技風景



模擬競技風景

『J-Skills News』に関するお問合せ

SESPP事務局 (株式会社JTB 霞が関事業部)

〒100-6051 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング23階
TEL : +81-3-6737-9263 FAX : +81-3-6737-9266

担当 : 近藤・池田・岩下
E-mail : sespp@jtb.com